

～まちの話題～

# ホタルの幼虫を放流

東部小学校では、環境委員会の児童が中心となってホタルを育てることで環境問題に取り組んでいます。

5月9日、委員会のメンバーが育ててきたヘイケボタルの幼虫を3年生の児童39人が、校内のホタルの養殖場「ホタルワールド」に放流しました。

東部小学校では1年生から6年生まで日替わりで幼虫を600匹放流。6月21日には一般に夜間開放してホタル鑑賞会が開かれます。



「ホタルワールド」に幼虫を放流する東部小3年生



水路に幼虫を放流する北原保育園児

5月11日には、北原保育園の年長・年中園児も幼虫の放流を行いました。

昨年に続き坂部三郎さん（白沢）が、知人の休耕田を借りて造ったビオトープ（生物を共存させた人工的な空間）に園児を招きました。園児たちは坂部さんの自宅で養殖した幼虫を1,200匹放流。「大きくなって光って飛ぶようになったら見に来るからね」とかわいい声を掛けながら水路に幼虫を放流していました。

## 花の撓<sup>とう</sup>で今年の出来を占う



おためし小屋の前で今年の出来を占う皆さん

名古屋市の熱田神宮で公開された絵図をもとに、「おためし小屋」に人形や農作物を並べ、衣装の色や配置などでその年の農作物の出来を占う「花の撓（おためし）」が、5月13日宮津の熱田社で行われました。

人形などを見て自分で感じたことが占いとなります。「風を表す白い神様が後ろの方に控えているので、台風が少ないかもね。」「前の方に俵がたくさん積んであるのでお米は豊作でしょう」とおためし小屋の前に集まった皆さんがそれぞれ思い思いの感想を話していました。

## 草木小5年生メダカで生命について学ぶ



メダカを雄と雌に分ける草木小5年生

草木小学校に「教材に役立ててもらえれば」と黒メダカ250匹の寄贈がありました。

寄贈したのは、自宅で黒メダカを趣味で育てている宮崎和好さん（阿久比）。新聞で宮崎さんが紹介されている記事を読んだ草木小学校の教諭が、「メダカを学習で取り上げたいから分けてもらえないでしょうか」と頼んだところ、宮崎さんが快諾。

黒メダカは5年生の理科の授業「新しい生命」で活用され、児童は雄と雌を区別する勉強をしました。教諭は「命が受け継がれることを子どもたちに教えるのに大変役立ちました」と話していました。